

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：土木費 項：河川費 目：河川総務費

事業名 河川魚道の機能回復費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

県土整備部 河川課 維持係 電話番号：058-272-1111(内4636)

E-mail：c11652@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 45,000 千円 (前年度予算額： 45,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	45,000	0	0	0	0	0	45,000	0	0
要求額	45,000	0	0	0	0	0	45,000	0	0
決定額	45,000	0	0	0	0	0	45,000	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県は、長良川をはじめとした主要な河川で「魚がのぼりやすい川づくり」を推進し、魚道整備等によって魚類等の遡上・降下環境の改善対策を実施。引き続き、整備した魚道の状態の把握と適切な維持管理によって、魚が遡上しやすい環境を整え、「水みち」の連続性確保を目指す。

(2) 事業内容

県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道について、「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた点検を行い、魚類等の遡上・降下環境を確保するため、必要に応じて土砂の除去や補修等、魚道の維持管理を適切に行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道の維持管理であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

特になし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
役務費	100	魚道点検に要する経費（ボランティア保険）
委託料	14,900	土砂撤去費用等
工事請負費	30,000	大規模修繕工事費用
合計	45,000	

決定額の考え方

--

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県管理河川及び砂防施設に設置されている魚道を対象に点検を行い、魚道の状態を把握するとともに、魚道内の堆積土砂除去等により、魚道の機能回復を図ります。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H23)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①健全な魚道割合(%)	59	87.5	85.9	80	80	80	100%
②							

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	(1) 「フィッシュウェイ・サポーター」による「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた県民協働による魚道点検：令和4年8月～12月に実施 (2) 土砂除去等の魚道機能回復：令和4年11月以降に実施 「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた魚道点検により魚道の状態を把握し、機能を評価した。今後、魚道点検の結果をうけて堆積土砂の除去や、要修繕魚道において修繕工事を実施する。
	指標① 目標：80% 実績：86.8% 達成率：100%
令和5年度	(1) 「フィッシュウェイ・サポーター」による「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた県民協働による魚道点検：令和5年8月～12月に実施 (2) 土砂除去等の魚道機能回復：令和5年11月以降に実施 「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた魚道点検により魚道の状態を把握し、機能を評価した。今後、魚道点検の結果をうけて堆積土砂の除去や、要修繕魚道において修繕工事を実施する。
	指標① 目標：80% 実績：87.5% 達成率：100%
令和6年度	(1) 「フィッシュウェイ・サポーター」による「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた県民協働による魚道点検：令和6年8月～12月に実施 (2) 土砂除去等の魚道機能回復：令和6年11月以降に実施 「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を用いた魚道点検により魚道の状態を把握し、機能を評価した。今後、魚道点検の結果をうけて堆積土砂の除去や、要修繕魚道において修繕工事を実施する。
	指標① 目標：80% 実績：85.9% 達成率：100%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない</p>	
(評価) 3	「水みち」の連続性を確保することで、岐阜県が推進する、「清流を守る」ための活動に資するため、事業の必要性は高い。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり 2: 期待どおりの成果あり 1: 期待どおりの成果が得られていない 0: ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	平成23年までには0箇所だった点検魚道数が、平成24年度以降は対象魚道全てにあたる672箇所となった。今後、点検結果をうけて効率的に土砂除去等を行うことで、さらなる事業効果が見込まれる。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている</p>	
(評価) 2	「清流の国ぎふ・魚道カルテ」を使用し、統一的に魚道の機能を評価することで、堆積土砂除去等の対策が必要な魚道を効率的に把握できている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 災害や経年劣化等により継続的に機能不全に陥る可能性があるため、魚道の再劣化を防止する補修方法の確立が必要。 修繕・改築を行った箇所における魚類の遡上状況モニタリングを行うことで機能回復効果を検証することが必要。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 魚道点検による機能評価の結果をうけて、堆積土砂除去等の対策箇所の選定を検討し、効率的に魚道の機能回復を図る。 前年度に機能回復を行った箇所における魚類の遡上モニタリングを行う。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】